

次年度会長決定

奥森秀夫 次年度会長 プロフィール

【所属企業・役職】 新和産業(株) 常務取締役
【入会年度】 平成23年度(第37期・平成24年5月)
【中央会経歴】 平成25年度 副委員長・平成26年度 県出向理事
平成27年度 委員長・平成28年度 副会長・平成29年度 専務理事
平成30年度 県出向監事・令和元年度 副会長

この度、鳥取県西部中小企業青年中央会第47期会長のご承認を頂きました奥森秀夫と申します。どうぞ、宜しくお願い致します。

高塚会長から次年度会長のお話を頂戴し、お受けさせていただきましたが徐々にその大役にプレッシャーを感じ悩む日々を送っておりました。その中、2月15日の臨時総会にて会員の皆様の「異議なし」という大きな声が私の背中を押し、腹に落ち「覚悟」というものになりました。第37期森協会長からバッジを頂戴し、来期で10年。その節目に会長をお受けできることを感謝すると共にこれまで各先輩方、会の仲間からたくさんの学びを頂いたご恩をお返しできるよう、会員の皆様にとって実り多い一年間となるよう全力で全うしてまいります。まだまだ、至らない点もございますが更なるご指導、ご鞭撻宜しくお願い致します。

今期、第46期も残すところ4か月となりました。コロナ禍ではありますが高塚年度が盛り上がるよう全会員で協力し共に歩みを進めております。引き続きのご協力、ご支援をお願いし、ご挨拶とさせていただきます。

次年度県会長候補ご挨拶

永井拓未 次年度県会長候補 プロフィール

【所属企業・役職】 (株)クラム 代表取締役
【入会年度】 平成22年度(第36期・平成23年3月)
【中央会経歴】 平成26年度 副委員長・平成29年度 委員長・平成30年度 県出向理事

2月例会の臨時総会にて、会員の皆様より鳥取県中小企業青年中央会 次年度会長候補に承認いただきました永井拓未と申します。どうぞ宜しくお願い致します。

高塚会長より県会長は永井君にお願いしたいと、言われた時は、全く予想していなかったのでびっくりしてしまい、県会長ですか!? と聞き返してしまい即答することができず悩みました。不安ばかり頭をよぎりましたが、新型コロナウイルスの影響で苦しい状態のいまだからこそ、自分を奮い立たせチャレンジすべきではないかと考え決断いたしました。先日の臨時総会にて、会員の皆様より大きな声で「異議なし」を頂戴し決意を固めることができました。この役職を全力で全うしたいと存じます。県でご承認いただいた暁にはいいスタートをきるべくしっかりと準備をさせていただきます。

私は、第36期北口会長年度に入会させていただき、10年の月日が流れました。たくさんの先輩方、後輩にいろいろなことを教えていただき、また助けていただきました。今の自分があるのも、この中央会のおかげですので、これまで先輩の皆様が会の活動に情熱を注がれ、長年築いてこられた中央会の伝統を踏襲していきたいと存じます。感染症の影響で活動には制限が予想されますが、県には他地区との交流など県ならではの良さがありますので、試行錯誤し前向きに行っていく所存です。至らぬ点など有るかと思存しますが、皆さまのご指導ご鞭撻の程、何卒よろしくお願い致します。

2月例会開催 ～新たな価値を創り出す一歩～



2021年2月15日ANAクラウンプラザホテルにおいて、ビジネスメディア委員会担当による2月例会が開催された。

冒頭の高塚会長よりご挨拶として、1月出来ず2月は久しぶりに開催が出来、皆様の前でご挨拶出来ることを嬉しく思います。コロナ禍で本来ならば開催される新年例会や新入会員アトラクションなど行う事が出来ませんでした。ハンサムで41期からの新入会員アトラクションの軌跡を拝見し心が救われるような記事で嬉しく思いました。まさに継続事業と言っても良いと思えました。また、この環境下での新しい取り組みで地域の宝委員会のzoom居酒屋も盛り上がりを見せたり、「優秀な人が生き残る」では無く、「環境に適應出来る方が生き残る」といった挨拶を述べられた。続いて臨時総会が開催され、議長を山口直前会長が務め進行した。第一号議案である「次年度(47期)会長候補指名推薦についての上程書の件」、第二号議案である「次年度(47期)

県会長候補指名推薦についての上程書の件」に対して、高塚会長より推薦の弁が述べられた。満場一致で次年度会長に奥森秀夫会員、次年度県会長候補に永井拓未会員が承認された。

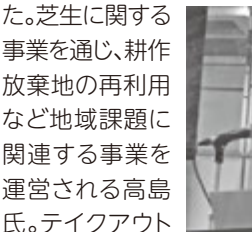
続いて継続実行委員会の安達委員長の

委員長タイムでは、プロフィールの紹介や写真を用いての建築や建設について熱く語られた。継続事業に関する写真もあり他業種の会員からの興味を持ってもらえる発表となった。



本例会では第一部で「新たな価値を創り出す一歩」をテーマにガイナレ鳥取経営企画本部長(株)GTベンチャー

ズ代表取締役高島祐亮氏、(株)MEGURUGURUME代表取締役田中和也氏をゲストにお招きし実例を踏まえご講演をいただいた。芝生に関する



事業を通じ、耕作放棄地の再利用など地域課題に関連する事業を運営される高島氏。テイクアウト

の新事業モデルや路面販売などのアイデアに富んだ事業を通じ、地域活性を図る事業を運営される田中氏。地域のニーズから新たな価値を創り出し魅力的な事業を創出しておられることをご講演された。

第二部ではパネルディスカッションが行われた。ゲスト両氏をパネリストとし、ファシリテーターをビジネスメディア委員会の伊澤会員と河津会員が務め、新規事業を考えるヒントや着眼点など意見交換された。ゲスト



両氏のご経験やクラウドファンディングを利用した新たなビジネスの模索。一見対照的な両氏それぞれの目線においての事業のポイントを地域の価値や課題とリンクさせ、新規ビジネスのアイデアを形にする。当会員も新たな価値を見出す重要な気付きを得る事が出来とても有意義な例会となった。

次に、奥森次年度会長と永井次年度県会長候補の承認を祝し、新井翔太応援団長の気合の入った発声のもと鏡開きを行った。高塚会長から「思い返すと1年前に会長の承認を受けた時から、会の運営は難しい舵

取りになっていきますし、誰がやっても難しい。当会の素晴らしい所は会員が集まって前を向いて歩いていける。最後は会員同士の繋がりが。この繋がりを持って46期、47期、48期とやっていきたい」と述べられました。

締めめの挨拶では、山口直前会長より「コロナだから出来ない事だらけですが、この状況に慣れないで頂きたい。46期高塚会長も任期が半分近く残っておりますがみんなで盛り上げていき、47期、48期へと繋げていこう」と締めくくられた。



縮めの挨拶では、山口直前会長より「コロナだから出来ない事だらけですが、この状況に慣れないで頂きたい。46期高塚会長も任期が半分近く残っておりますがみんなで盛り上げていき、47期、48期へと繋げていこう」と締めくくられた。

縮めの挨拶では、山口直前会長より「コロナだから出来ない事だらけですが、この状況に慣れないで頂きたい。46期高塚会長も任期が半分近く残っておりますがみんなで盛り上げていき、47期、48期へと繋げていこう」と締めくくられた。



(記事:石井道)

2月例会を終えて

広報委員会 柏木 克仁委員長 (有限会社育成 専務取締役)



この度は、2月例会へご参加いただきありがとうございました。「新たな価値を創り出す一歩」をテーマに開催いたしました。今までの価値観からより広く多様な視点で価値を捉える機会になればと思ひ、地元企業で面白い事業を展開されておられる高島様と田中様にお越しいただきました。実際に魅力ある事業を取り組んでいる実例を紹介していただき、講師の熱量を感じながらアイデアやブランディングをする手法など新たな考え方を伝えていただきました。そして講師とのディスカッションを通じて、新しいサービスやビジネスを創造するプロセスを知り、そこから「見えない価値」＝「地域と人が互いに強みを活かす事業」が生まれ、今までにない価値を創り出していくことの楽しさを感じていただけたのではないのでしょうか。最後にこのような例会を創り出せたのは、一人の力では成し遂げることが出来ませんでした。委員会メンバーと共に目的を共有し協議を重ねることで、より良い例会が創り出せることを改めて感じる機会になりました。委員会メンバー及びご参加いただいた会員の皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。

第46期ハンサム連載『会社の「当たり前」をやめた!』



『会社の「当たり前」をやめた!』Vol.7

地域・子供に寄り添う塾Swanの挑戦

学習塾「塾Swan」

第一編集部 下村英一(リーダー)、渡部直哉、住真介、原正史

「勉強する時間をもっと楽しく」をテーマに、個別指導+タブレット学習、幼児(5歳~)からのプランや通塾なしのプラン設定など、様々な取り組みを導入されている米子市内の学習塾「塾Swan」の板底代表にお話を伺いました。



板底代表

—塾を始めた経緯を教えてください。—

高校卒業まで鳥取県米子市で過ごし、大学卒業後は商社に就職して中国、ニューヨークなどで仕事をしてきました。海外で過ごすうちに、日本での教育について考えさせられる場面が多々あり、その中で日本に帰って教育の仕事に携わりたいと思うようになりました。やるのであれば生まれ育った地元でと考え、地域貢献や活性化にも繋がっていきたく思ったのがきっかけです。

—塾Swanの特徴や理念を教えてください。—

私は子供たちが「勉強すること」を好きになるのが一番大切であると思っています。

「遊ぶこと」と「勉強すること」が同じ楽しさであれば、自分から課題に取り組み、学習する環境を整える事ができるようになると考えています。

生徒のレベルに関係なく、本人の中での「小さな成功体験」を積み重ねていくことを大切に、「できないからやらない」を「できないけどやってみよう」に変えていく手助けを日々行っています。

そのためにSwanでは、今までの塾の当たり前をやめて、次の事に取り組みしました。

1つ目に、成績を上げることよりも勉強を楽しむスタイルを目指しました。偏差値の高い志望校に合格することや成績向上することが目標やゴールではなく、楽しく勉強できる環境づくりに優先して取り組んでいます。進めていく中で、どんなレベルの子でも同じ目線で接することができ、結果的に生徒の成績向上や塾生増加につながりました。

2つ目に、個別指導と全体授業の両立できる方法を考えました。1週間のカリキュラム中に個別指導と全体授業を両方とも組み込み、個別指導で生徒ごとにあったカリキュラムを実施し、全体授業でポイントの重点化やモチベーションアップ、一体感を高めることで、両者の良い部分を合わせる事ができました。

3つ目に、塾の開校日を減らして講師のワークライフバランスを充実させました。週の開校日を少なく設定する代わりに講師たちの賃金を高めにし、モチベーションアップも図りました。これが生徒の満足度を上げることにもなり、退塾者の低下につながりました。

4つ目に、幼・小・中の一貫化です。5歳からの幼児クラスを設定し、幼児~中学三年生まで対応できるシステムとしました。また、一貫化での既存生徒に加えて、どの世代でも新規生徒を同時に募集していくことで、生徒数の安定化を達成することができました。

5つ目は、勉強以外の視野を広げる(グローバル、タイムマネジメント)です。塾内情報誌で、海外のニュースや取り組みを紹介し、グローバルな観点を養います。また、これは保護者に私からのメッセージを届ける場ともなっています。

そして、「勉強すること」を好きになった次のステップは、勉強に対する姿勢と環境作りになります。そのためには、子供たち自身が自立(律)できるように、時間のメリハリやスケジュールを自分で上手く把握できるよう伝えながら進めています。

—通塾なしのプランとタブレット学習について教えてください。—

家庭学習だけでもしっかり頑張りたい、テスト前だけ塾に行きたい等の思いを形にしたプランを準備しました。準備した教材と配布したタブレットによる学習で家庭学習をサポートし、必要な時に予約してテスト対策講座や個別指導を受けられるようになっています。

また、タブレット学習もSwan独自の使い方を考え、塾に来た時だけの個別指導ではなく、家庭学習でも活用してもらっています。



—5歳の幼児クラスや小学生クラスについて教えてください。—

教育の経済学と呼ばれる言葉があるように、年齢が小さいほど教育の効果は高くなることわかってきます。早い段階で遊びながら勉強に触れる機会を増やしていくことで、小学校入学前の

幼児や低学年クラスを作りました。言葉遊び、世界パズルを使った脳活系のトレーニング、算数、国語やそろばんなど、子供たちの無限の可能性を応援します。

—これからどのような塾でありたいと考えておられますか—

これから勉強を始めたい、もっと高いレベルに行きたいといった様々なレベルに対応できるようSwanも成長していきます。私の中のもう一つのテーマとして、保護者のモチベーションアップがあります。Swanを通して保護者にもメッセージを発信し、日々の人生を楽しくするきっかけになってくれればと思います。

塾の先生と生徒という関係ではなく、塾の中での勉強というツールを通して、彼ら彼女らの個人を尊重し、いつか人生で悩んだときに選択肢がひとつでも増えるように。それが私とSwanの願いです。

—当たり前をやめたことによって生まれた成果、価値について教えてください。—

感じた成果として、「勉強が好きではない生徒にとって通いやすい塾」になった事があります。これは成績の良い悪い両方の生徒に効果がありました。子供たちが家で楽しくSwanのことを話してくれるという保護者達からの声によって今の考え方の取り組みに手ごたえを感じています。

これは今までSwanに携わってくれた皆様のおかげだと思っています。本当に感謝しています。



【インタビューを終えて】

乳幼児2人の子がいる私は、個別+タブレット学習や幼児プランのある塾Swanに非常に興味を抱き、この度板底代表にお話を伺いました。板底代表のご自身の体験に基づく教育に対する思いや考えをお聞きし、強い感銘を受けました。その子のレベルに合わせて成功体験を積み上げていく、それによって自分で学習する力をつけるのと考えは、子どもの学習のことだけでなく、大人の我々にとっても壁を乗り越えるためのヒントになるのではないかと思います。

T.S.Cへの情熱 ~卒会者より~



田中 健雄(司法書士法人 田中事務所 代表社員)

「お前、ちょーそこの書類のサインして」「ちょーそこの書類にサインしてや」と言われるがまま、入会申込書に署名捺印したのが平成20年初旬。今年ようやく卒会者の証となる原稿依頼をいただきました。

個人事業主で社会人としての基本を勉強する機会もままならず、中央会に入会し、社会人としてのマナーから物事の考え方や進め方を学ばせて頂きました。そして、飛躍的に成長される人の姿を幾度となく目の当たりにしてきました。但し、自分がどれだけ成長できたのか、原稿を書きながら自問自答していますけど。

中央会を通しての様々な体験、経験が学びとなり、学ぶため、成長するためには体験、経験が必要なんだと、当たり前のような事を今更ながら実感しています。その為にも熱意をもって飛び込める環境作りも大事だと思います。

卒会という一つの区切りにはなりますが、皆様方に感謝の気持ちを申し上げると共に西部を中心に張り巡らされた中央会ネットワーク、目に見えないですが大きく偉大なこの繋がりは継続していくものですので、今後も引き続き宜しくお願い致します。

会長連載

勇気ある一歩

~クールヘッド・ホットハート~

第46期 会長 高塚 康治

皆さん何か習慣にされていることはありますか?当社では毎朝の朝礼、工程会議の後、全員で会社の清掃をしてから業務に就くようにしています。掃除をすることで、気づく力を養い、頭の中を整理し、今日一日仕事へ取り組む心の準備を行います。私も必ず玄関の扉を開けて掃除をしています。そこには「風通しの良い企業・組織になりたい」という気持ちを込め、物理的に風通しをよくし、頭の中にその考えを習慣化させました。ホントに風通しがよくなっているかどうかは分かりませんが、考えることも習慣にすることでそこに近づけるような気がしています。1日10分の清掃が、1年に換算すると40時間以上になります。日々の積み重ねを大事にし、経営していきたいものです。



第6回 大山お地蔵さまフェスティバル 第3回 実行委員会開催

当会の継続事業として開催される第6回大山お地蔵さまフェスティバル第3回実行委員会が1月19日に行われました。県のコロナ警報発令によりzoomによるオンライン開催となりました。県のコロナ警報発令によりzoomによるオンライン開催となり当会会員44名が出席しました。各部の部長から企画案について説明があり、実行委員会内で企画内容や進捗状況を確認し共有しました。その後は、引き続きzoomによるオンライン部会の開催となり、具体的な内容について意見を出し合い協議しました。5月16日の大山お地蔵さまフェスティバルに向け、各部の事業内容を一つ一つ確認しながら参加される方々が楽しく喜んでいただけるよう準備し、子どもたちの心の成長と地域を愛するきっかけづくりを行い、地域社会と共に歩み続ける事業にいたします。



当会の継続事業として開催される第6回大山お地蔵さまフェスティバル第3回実行委員会が1月19日に行われました。県のコロナ警報発令によりzoomによるオンライン開催となりました。県のコロナ警報発令によりzoomによるオンライン開催となり当会会員44名が出席しました。各部の部長から企画案について説明があり、実行委員会内で企画内容や進捗状況を確認し共有しました。その後は、引き続きzoomによるオンライン部会の開催となり、具体的な内容について意見を出し合い協議しました。5月16日の大山お地蔵さまフェスティバルに向け、各部の事業内容を一つ一つ確認しながら参加される方々が楽しく喜んでいただけるよう準備し、子どもたちの心の成長と地域を愛するきっかけづくりを行い、地域社会と共に歩み続ける事業にいたします。

(記事: 柏木)

青年中央会・厄落しの会



令和3年1月23日(土)、毎年恒例となっている「青年中央会・厄落しの会」を米子市博労町にある勝田神社にて行いました。今回は前厄2名(恵比木副会長・永井副会長)、本厄6名(高井副会長・安達委員長・中西委員長・松田会員・高見会員・佐々木会員)、後厄1名(小谷会員)の合計9名の参加となりました。祭主様より参加者の名前を

呼びながらご祈禱いただき、続いて今年本厄となる6名が代表して玉串を納め、厄落しを祈願しました。祈禱終了後、御守と御神酒を頂戴しました。また、あいにく雨が降っていたため今回は拝殿内にて記念撮影をさせていただきました。厄落しの会を閉会しました。

男女共に、厄年とその前後の年は、医学的に身体の変調が起こりやすい時期、社会的には環境が変わりやすい時期で、人生の節目になりうる重要な時期ということだそうです。厄年を後ろ向きに捉えるのではなく、自分のライフスタイル、生活習慣、仕事やスキルを見直すきっかけ(好機)として、前向きな気持ちで迎えたいと思います。

佐々木 崇(鳥取銀行安来支店支店長)

3月役員会報告

令和3年3月1日(月)米子市公会堂集会室6・7にて3月役員会が開催されました。議題は以下の通りです。

- ・2月例会開催の件
 - ・鳥取県中小企業青年中央会の件
 - ・第6回お地蔵さまフェスティバルの件
 - ・次年度副会長及び専務理事及び参与指名推薦についての上程書
 - ・次年度理事・監事・県出向役員候補 指名推薦についての上程書
 - ・3月例会開催の審議
 - ・4月例会開催の協議
- ※なお、詳細については各委員長までご確認ください。

編集後記

中央会に入会して2年で1年が経ちました。1年って本当にあっという間ですよ。

「一日一生」という四字熟語があるように、1日1日を大切に、今出来ることを楽しんで過ごしていきたい!と改めて感じる今日この頃。

(ビジネスメディア委員会: 渡部直哉)